

第 68 回例会（令和 4 年 9 月 14 日）

「うちげでいきたい」

出席者 135 名（会場参加 19 名、Web 参加 116 名）

アンケート回答 30 枚（回答率 22%）ありがとうございました。

1. 映画を観て、感じたことや、新たな気づきはどんなことでしたか？
2. 映画を観て、人生の最期のときをどう迎えるか、どう家族や周りの人と話したらよいか、考えたことがあれば教えてください。
3. その他

1. 終末ケアをきっかけに家族それぞれが本人のために演じることで、少しずつ変わっていく様子が印象的だった。民代本人もその家族の芝居を気付かないふりをするので、当時、夫に対して演じたことが夫にはちゃんと解っていたことに気づく。何もできないもどかしさに家族は自問自答し悩んでしまうが、本人のためにやったことが正解だったかどうかは、自分が最期を迎えるときによく答えを知るのだと感じた。本人の希望することに合わせて家族がやったことは最終的には正解として落ち着くのだと感じた。(OT)

1. 演じることは下手なので、本音で話せる関係を作りたいと思います。2. 本音で聞いてみることをやってみようと思う。(介護支援専門員)

1. 父を在宅で看取りました。本人に伝える難しさ、もっと良い風に送れたのでは？映画を見て改めて考えさせられました。(その他)

1. 一緒にいることで感じる何かを、それぞれが考えながら見ることができる作品だと思いました。2. 今、感じていることと、その時に感じることは、きっと違うだろうと考えました。だから、今は考えなくても良いかな・・・。(その他)

1. 今回 2 回目でした。死期が近くなることで、家族の本人への思いやりと、本人の家族への思いやりがそれぞれ大きくなり、結果的にそれが「演じる」ということなのかと感じました。それは、在宅で看取るという選択をすることで、思いやる時間とそれを共有する時間が持てるのだろうと思いました。2. やはり、死期が近くなってどうするのかではなく、このような映画を観ることで家族でどのような最期を過ごせるかの理想を共有しておくべきだと思いました。(その他)

1. こんな綺麗な映画にあえて良かったです。演じることを意識しなくても、本音と演技はしていると思いました。自分の最後をどのようにするのか、大切なことだと思います。2. 今の感じた気持ちを、家族に伝えてみることから始めればと思いました。何気ない会話の中に伝わるものもあるのかもしれませんが。3. どのような生き方をしていくのか、どう最後を迎えるのか、利用者に向きあうときに大切にしていきたいです。(介護支援専門員)

1. 穏やかに死ぬことは、逝く人にとっても、残される人にとっても幸せなことですね。誰もが幸せな死を迎えられたらいいなあと思いました。2. 普段はなかなかきっかけが作りにくいと思います。例えば誕生日にとか（毎年でなくても 5 年ごととか）にするのはどうでしょうか？(その他)

1. あらためて ACP について考える機会になった。自宅で看取るには家族も覚悟があるので、それを支えられるようになりたいし、自分が看取る立場になった時も親身に支えてもらえる人が近くにいると心強いと感じた。2. 正解はないと思うので、よりその姿勢を常に意識して関わられたらと思う。3. 映画はあっという間に見終わりました。とてもよかったです。映像も素敵ですし、俳優さんも味があってよかったです。内容も複雑すぎずよかったです。実際の看取り現場ではドロドロすることもあると思いますが、それを出しすぎると思考停止になりそうな気がします。ハッピーな感じの映画で安心感がありました。(OT)

1. 息子さんの本音のところ泣きました。普段から本音が言えておりません。最期でなく普段から本音を伝える事、話すこと、大事だと思いました。2. 講演のスライドにもありましたが、家族に負担をかけたくないという思いから、施設や病院で最期を迎えたいと思っておりましたが、自然な形で、その時に感じた思いを伝え、素直に自分に正直に、自分の思

いに無理せず最期を迎えることができたと思います。3. この研究会に参加させていただき感謝です。参加者の皆さんの熱い思いに触れることができ、とても勉強になったというか、うまく言えませんが、感動しています。ありがとうございました。(その他)

1. 初めて視聴させていただきました。互いを思って演技する事、演技の中だからこそ出せる本音もある事、上手く表せませんが切ない気持ちになりました。2. その時が来た時にどうするべきか、それを考えておく事が大事だと考えるきっかけになったかと思えます。(薬剤師)

1. 自分の祖父母に長く自宅で過ごして欲しくて介護のプロになろうと思い介護福祉士になりました。就職してすぐに祖父母は病院で亡くなりました。現場で20年働いたのち、今年4月からケアマネージャーとして働いています。在宅で過ごしたいご利用者の希望が叶えられるよう、制度など学んでいく事はもちろん、一人ひとりに寄り添えるケアマネージャーになりたいと思いました。2. 自分が親の介護をする事に対しては何とも思いませんが、排泄ケアや認知症の方への対応の大変さを経験しているので、自分の子供たちには自分の介護はさせたくない、と思っています。3. ケアマネージャーとしてまだまだ知識経験共に不足しており、研修等に参加しても、聞く事で精一杯ですが、また参加させていただけたらと思います。ありがとうございました。(介護支援専門員)

1. この映画ではしっかりと本人の意思が反映されて家族に見守られながら自宅で最期を迎えることができており、非常に幸せな形の最後を迎えることができたのかなと、ハッピーエンドにはならない現実ではありますが、ひとつの理想として家族が目指す形なのかなと思いました。映画のストーリーとしては、看取る側の家族はそれぞれの問題はあっても悲壮感を感じさせず、どうしたら心残りが無いだろうかと一生懸命考えて演じるというやさしさを見せ、看取られる患者は家族の演技を理解した上で受け入れ、気づいていないという優しい演技をしたまま最期を迎えられたということで非常にほっこりしました。私たちは在宅で家族の状況によって演じながら接しているのだからと再確認しました。また、自身の近親者で死別の場面を経験していると感情

を投影しやすく私自身もいろいろとそのころ感じたことを思い出しました。2回目なのですが、引きこもりの高齢化、不登校などの社会問題も絡んでいて、毎回様々な視点で何度も見れる、ある意味スルメの様な映画だと思います。また見たいです。2. プライベート空間に入って本人や家族と接する時間が比較的長いので、探り探りながらもそういう話を少しずつすることはあります。ただ、実際に自分の死について実感の湧いていない人に対してまた家族に対してACPについてどのように伝えていくのか日々悩み考えながら仕事をしています。私自身は家内に対して折を見ながら最後はどうしたいかということは伝えていきます。3. 是非、機が熟したら次回作を作って欲しいです。楽しみにしています。(その他)

1. 現在、実際にターミナル期の方を担当させていただいていますが、ご本人は『家族に迷惑をかけるから』となかなか話せないようです。私たちに何が出来るかを考えさせられました。2. 私に何かあったら、私の意向を家族に伝えてと伝わりやすい人に伝えておく。(主人など)手紙に残しておく。3. 状態が悪化したときにご家族・看護師・主治医・ケアマネとでターミナル期についての話し合いをしました。ご家族様は初めてのことで「怖い」と言われ事業所の泊りサービスを利用したいと希望があり、訪問診療の時に自宅に戻るという形で話がすすみました。(この時はご家族様の意向が主になってしまっています) 私たち介護・看護職は、「あの時の話し合いはこれでよかったのであろうか?」「ご本人の気持ちは?」「ご家族の意向だけで事が運ばれていないか?」という意見が出ました。そこで、ご本人様に想いを聞こうということで、何度か話をしましたが、最期の話になるとご本人様は口を閉ざしてしまわれます。個室でゆっくりと話をしたほうが良いか環境の問題があるか。職員との信頼関係があるか。ご本人が家族に迷惑をかけたくないから話をされないのかなど色々と考えました。1回だけではなく普段の会話の中で本当の気持ちはどうかを聞くことが出来るよう取り組みました。そしてある日、ご本人様との会話途中で『もう、冥土が近いですから。』と言われた事をきっかけに、「では最期はどこで迎えたいですか?」「どのような形で迎えたいですか?」など踏み込んで質問をしてみたところ、ご本人様が『自宅で家族に囲まれて最期を迎えたい』とご自身の気持ちを話してくださいました。そのことをご家族様にもお伝えし、ご家族も『母の気持ち

が良くわかりました。人一倍気を遣われる人なので、初めは家族に迷惑をかけるからと話さなかったのでしょうね。でも、ケアマネさんからその話をきいて、兄弟にも母の気持ちを伝えました。最期は兄弟もよんで家族みんな揃って手を握って送ってあげたいと思います。」と話してくださいました。ご本人も「ありがとう」と満面の笑みでした。このように、信頼できる介護職・ケアマネ・看護師等にご本人が本音を話してくださったとき、ご家族にもご本人の気持ちをお伝えし、どのようにしたらご本人の思いを実現できるか、実現できなくても少しでも近づけるためにはご家族・関係者に何が出来るかを一緒に考え、少しでもご家族の不安をやわらげながら（このようにサポートすると具体的にお伝えする）後悔のない看取りが増えていけば良いなど支援を行いながら日々感じています。（介護支援専門員）

1. 映画を見て、49歳で亡くなった母の闘病の姿、89歳でコロナと亡くなった父、日中戦争の激戦地を生き抜いて103歳まで生きた義父などを思いました。死は生の一部、死は生の完成、そういったことは子や孫とも話していきたいと思っています。
2. 映画を見て、兄が脳梗塞を起こしたとき、連れ合いと3人の子は、父らしい生き方は何かを話し合っ、延命治療をことわりました。兄の生き方を家族が理解していたのだと、その家族のあり方を嬉しく思いました。我が家でも、連れ合いは献体登録をしていて、死とか死後の世界のことをよく話します。私も介護の時は、本人とも、家族とも、介護者とも、そのような話ができる機会をとらえるようにしています。（介護福祉士）

1. 理想的だと思いました。私は病院から在宅看取りを希望された方を地域支援者に繋げる側です。意思決定ができる間に話ができる方もあれば、入院後直ぐに状態不良となり、本人の意思確認ができず看取りになる方もあります。病院の医師の中には、寝たきりや介護度が高くなると、「家では無理でしょう」と家族に言い、医療者間カンファレンスでも言われ、最初から在宅の話がされない方もあります。しかし、家族は連れて帰りたいと言われ、在宅看取り調整をしたこともあります。地域医療者、支援者の方々、家族、それを取り巻く様々な方々の協力があっての支援だと思います。映画を観ながらそんなことを思い出しました。
2. 私はいつも、「長生きしたいと思っていないから」と、家族に話していますが、最期をどこでとはまだ話していません。いつど

うなるかわからないので、終活ノートも書き始めましたが、なかなか進みません。（看護師）

1. 時間も内容もちょうど良いと感じ観させて頂いて良かったです。死について自分事としてみつめることで今を精一杯生きることにつながり自分らしく人生を後悔なく過ごせると感じました。
2. プラスの死生観を持っていますのでしっかり考えて周りの方とも話をしていきたいです。（介護福祉士）

1. 全体の映像がふわっとしていて、見終わった時、心が静まるように感じました。
2. 機会があれば、常に意識していて、話題にするようにしている。
3. 私は歯科衛生士です。いつも食べる話から食べられなくなったら、またその先のことを話しています。（歯科衛生士）

1. 亡くなっていく方も演じているかもしれないという考え方。全ての人ではないと思いますが、ハッと気付かされる部分でした。
2. 多くの人を看取りましたが自分の事はあまり考えてないのが正直なところです。（医師）

1. 演じるというテーマについて自身で考えることができた。わがままや我慢など自分と関係者に存在するので、実際には色々と感じます。
2. まだ本音で話せていない。まだ必要と感じていないことが良くない気がします。いつなにが起こるかわからないとは気づいています。（薬剤師）

1. 引きこもり、片親など現代社会を象徴するような家族で、看取りとは程遠いと思っている人にも響きやすい内容だと感じました。
2. 実家を離れ、叔母の他界の際は、20年近く前の記憶しかないのが後悔。（その他）

1. これから考えてゆきたいと思います。
3. 緊急時については子供達に伝えておりますが、新たなThemeをいただきました。（看護師）

1. 今回で2回目の視聴です。1回目はひきこもりの息子や不登校の孫、末期癌などネガティブな要素にまず目が行って自分の立場に置き換えてもしこうなったらどうするだろうと色々考えさせられましたが、2回目は登場人物ひとりひとりの事をもっ

と客観的に見られ、ポジティブな要素も色々感じ取れました。良い最期、良い看取り、考えれば考えるほど難しいです。2. 自分の人生の最期のときは、きっと周りの家族や友人など「生」が続く方たちが少しでも悲しまないよう、気分がラクになるよう演じると思うが、自分の周りに「死」について軽く話すだけでパニック過呼吸になるくらい「死」を恐れている人もいるので難しい問題だと思う。(軽度の発達障害があるかもしれないが、そういう話だけは冷静にすることができない) (薬剤師)

1. 家族のきずなというものを感しました。2. 最近父が調子が悪いとよく言っているため、しっかりこれからの事を話していきたいと思いました。(OT)

1. 一度目は 40 分の中にたくさんの課題がつまっていて何に焦点を当てて考えればいいのかわかりませんでした。今回は"演じる"ことに焦点をあてて視聴することが出来ました。告知をうけても、うけてなくても周囲は演じることが必要と感しました。2. 自分のことは夫や子供に伝えておくことは出来ると思うが親や親族、高齢者に対してこちらからどう切り出していけばいいかまだ答えは出ません。(介護支援専門員)

1. 最期のときが近い方は、演技をしたりまだまだ大丈夫だと言っても気づかれてることが多いのかなと感じた。2. 自分のときは家族に伝えたいことを全て伝えたいと思った。まじめな話を避けてしまいがちになるが、しておかなくてはいけないと思った。(薬剤師)

1. 前回拝見させて頂いた後にテーマとして「演じる」があるとうかがっていたので今回は別の視点で考えることが出来ました。最期に立ち会うにあたって毎回正解は違うと思うので正直に接するのか演じる必要があるのか考え続ける必要があると感しました。今回「演じる」というテーマで見ましたが、一番演じていたのは民代さんと言われるまで患者本人が演じていることに気付くませんでした。自身がその立場になる前に気付く機会がありよかったです。2. 最期を迎える時には必ずしも話し合える状態ではないかもしれないので事前に備えておくことが理想だと思います。あとは話し合うにあたっての気恥ずかしさ等があるので今回の映画のようなきっかけを話し合いたい方と見れると良い

のではないかと思います。(薬剤師)

1. 映画の作成などについての話が聞けて良かった。2. 考えがあれば繰り返し家族に伝える必要あり。私の母は胃ろうするなと繰り返し言うので「胃ろうするな」と腹に入れ墨するよう返しています。3. 看取り、死亡確認について入院で見ていた時と在宅で看取りをした時の感情の違いはその通りだと思います。今は在宅看取り出来たら良いことをした。やり切った。という感情を持ちます。(医師)

1. 演じることの大切さを改めて感しました。2. 歳をとると「どういう死に方で亡くなっていくか」を考えるようになってくる。こういう点では生も大事であるが死もとても大事なもので「生きている人が死ぬ」という連続したものではなく、死は生と独立して厳然として存在しているとあらためて感しました。(医師)

1. 一人で看取りせず大勢で取り組むと気が楽になりゆっくりできるかも知れない。2. 超高齢者の場合は、自然に最期を迎えられるようですが、若い方の場合は苦痛、呼吸苦など状態が悪く在宅では難しいのではないかと思います。(医師)